

令和 5 年度 事業計画



人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.
(国際赤十字運動標語)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

高知県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

令和5年度日本赤十字社高知県支部事業計画

－ 目 次 －

○はじめに-----	1
I 令和5年度活動方針 -----	2
II 事業計画	
1. 南海トラフ地震をはじめとする災害への対応-----	3
2. 青少年の育成-----	6
3. 赤十字活動の展開-----	7
4. 会員の増強と活動資金の募集-----	10
令和5年度日赤活動資金地区別目標額(案)一覧表-----	12

はじめに

日本赤十字社は、創立150年である令和8年に向けて「国内外における人道支援活動の“要”となり、我が国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字」を目指す姿とする「長期ビジョン」を平成31年4月に策定しました。その事業戦略として災害時における支援の充実とレジリエンス（回復力）の強化等を、また、運動基盤強化戦略として会員の赤十字運動への参加促進、奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充等を掲げ、3年毎の中期事業計画を策定して事業を進めています。今後の感染状況をふまえた上での活動の再開とともに、アフターコロナへの的確な事業転換に向けた検討のほか、対応の長期化に備えるなど、アフターコロナに向けた赤十字の役割がより一層重要になると考えています。

高知県支部におきましても、感染症対策に万全を期しながら、南海トラフ地震をはじめとする大規模災害や頻発・激甚化する豪雨災害等に備えるため、訓練・講習等の実施や災害救護体制の強化を図っていきます。

また、将来を担う児童・生徒が青少年赤十字を正しく理解し、他者へのやさしい気持ちを持つよう青少年の育成に努めていきます。

さらに、「いのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を果たしていくために、県内の赤十字施設や関係機関と連携するとともに、地区・分区や地域奉仕団をはじめとする赤十字ボランティアの皆様との協働を図りながら、各種事業を着実に進めてまいります。

これらの活動の財源は、皆様からお寄せいただく貴重な活動資金により支えられているため、赤十字の理念と活動の普及に一層努め、会員及び活動資金の増強を目指してまいります。

日本赤十字社 長期ビジョン 目指す姿と長期戦略 ～創立150年に向けて～

目指す姿	国内外における人道支援活動の「要」となり、わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字
-------------	---

長期戦略

事業戦略

- ・災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化
- ・超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求
- ・多様性が進む社会における人道の輪の拡大

運動基盤強化戦略

- ・会員の赤十字運動への参画促進
- ・奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充
- ・国際赤十字との更なる共同

I 令和5年度活動方針 (13ページ参照)

- ① 南海トラフ地震をはじめとする災害への対応
- ② 青少年の育成
- ③ 奉仕団の育成
- ④ 会員の増強と活動資金の募集

①～②を活動の2本柱とし、「人間のいのちと健康、尊厳を守る日本赤十字社」として防災減災、赤十字救急法や幼児安全法、水上安全法、健康生活支援講習等の普及に努めるとともに、未来を託す青少年の育成等人材育成にも力を入れてまいります。これら赤十字事業を行うには、奉仕団の協力と活動資金の確保が不可欠であり、奉仕団の育成を3つ目の柱とし、会員の増加、活動資金の増強等の基盤強化を4つ目の柱として事業を進めてまいります。

令和5年度 重点項目

南海トラフ地震等への対応

- ・支部の災害対策本部としての機能を高め、救護・受援体制の確立を図る
- ・旧庁舎の解体に着手するとともに、解体後の土地利用について検討する

互いを思いやり助け合う地域づくり

- ・救急法等各種講習を通じて平時からの互助・共助の意識の醸成を図る
- ・気づき・考え・実行する、他者へのやさしい気持ちを持った青少年の育成

赤十字奉仕団の育成及び活動の活性化

- ・奉仕団指導講師を計画的に養成するとともに、ブロック別研修など奉仕団員の育成に努める
- ・各奉仕団の活動を見える化し、活動の活性化を図る
- ・イベントや研修等を通じて各奉仕団同士の交流を図る

会員・活動資金の増強

- ・地域における赤十字事業への理解促進
- ・企業・法人の赤十字事業への理解促進と多様な協力方法の提供による新規協力量人の開拓
- ・個人寄付者及び赤十字事業協力者の会員化

Ⅱ 事業計画

1. 南海トラフ地震をはじめとする災害への対応

(1) 救護・受援体制の確立

災害救護は日本赤十字社の最も重要な事業であり、南海トラフ地震や近年頻発する豪雨による災害等に対応するため、支部に救護班を6班、高知赤十字病院にDMAT(災害派遣医療チーム)7チームを常設するとともに、適切かつ迅速な災害救護活動が展開できるよう必要な体制の構築を進めます。

また、新たな救護員育成体系や計画に基づいた研修、訓練等を実施します。

① 行政・医療機関との連携

「高知県災害時医療救護計画」に基づき災害時に連携できる体制を構築できるよう、県主催の訓練に支部職員や救護班を参加させるなど、高知県保健医療調整本部や関係機関・団体との協働を進めます。

② 本社・各県支部との連携

南海トラフ地震に対して、「日本赤十字社南海トラフ地震対応計画」や「第5ブロック東南海・南海地震災害救護運用マニュアル」等に基づき、被災時の支部災害対策本部機能の構築や受援体制の整備に取り組むとともに、本社や中四国ブロック主催の救護に関する研修への職員派遣や他県支部等との合同訓練を通じて本社・各県支部との連携を強化していきます。

③ 地域の防災訓練への参加

日本赤十字社高知県支部救護班や高知赤十字病院DMATを、各地域での防災訓練・研修に可能な限り参加させ、地域救護の実効性を上げていくとともに、職員の救護技術の向上を図り、「赤十字活動の見える化」の一環としても推進していきます。

④ 救護装備・資材の整備充実

これまで整備された災害時対応の指揮車や救急車、資材運搬車両、医療救護の前線拠点として配備されたdERU(国内型緊急対応ユニット)、天候に左右されない機能性を持つドラッシュテント、救護班用トイレや災害時の救護資材の定期的な点検に努めるとともに、即時に対応できるよう資機材の整理や習熟訓練などに努めます。

⑤ 救急法等各種講習

ア) 赤十字救急法や水上安全法、幼児安全法等、特にAED(自動体外式除細動器)を用いた救急法講習会を県内各地で開催し、災害や不慮の事故・急病等に対応する知識・技術の普及を図り、県民の皆様の安全意識の向上、共助精神の高揚に努めます。

イ) 南海トラフ地震に対する県民の防災意識の向上と地域防災活動の活性化を図ります。

ウ) 地域包括ケアシステムの構築に寄与する健康生活支援講習を実施するなど平常時からの互助・共助の意識の醸成に努めます。

(2) 地域拠点の構築

平成 27 年度より災害時に頼りになる人材として心肺蘇生や応急手当を行える人材を育成していくことを目的に、県内 12 地域で社会福祉協議会等と防災に関する協定を締結しており、市町村社協職員を中心に赤十字救急法救急員、救急法指導員の資格を取得していただくとともに、地域での防災・減災意識の啓発に努めます。

① 防災に関する協定の促進と締結団体との協働

ア) 救護・受援体制の確立も含め、細やかな地域活動を行うため、地区分区並びに地域の行政・社会福祉協議会などとの連携を強化すべく防災に関する協定の締結を進めます。

イ) 協定締結地域では、赤十字救急員を避難所毎に配置できるよう養成し、地域での防災ボランティアとして赤十字奉仕団や地域住民と共に災害に備えるための基盤を作ります。

ウ) 奉仕団等ボランティアが中心となった講習普及を通じて、関係団体との連携を強化し、地域防災のみならず地域包括ケアシステムへの貢献に努めます。

② 防災教育の推進

ア) 被災イメージを構築し発災初期のいのちを守るため、下記の習得に主眼を置いた地域コミュニティでの防災教育に努めます。

- ・地域の「自助」「共助」力の向上
- ・地域住民の「知識」「意識」「意欲」の向上
- ・「行動」を変えることを目的に赤十字防災セミナーやHUG(避難所運営ゲーム)、クロスロード等、地域ニーズに応じた防災教育の普及啓発

イ) 奉仕団活動をはじめ、地域で安全安心な活動を活発に行っていただくよう、地区分区等と共同で防災講演や救急法、健康生活支援などの講習、治療奉仕実施等の赤十字事業を推進します。

ウ) 地域住民の自助・共助力の強化として、行政や社会福祉協議会などが行う避難所や災害ボランティアセンター運営の研修・講習に参加し、「赤十字の見える化」にも繋げていきます。

③ 広域での中核人材の確保

ア) 県内各地域での救急法講習開催を推進するため、協定締結地域の社会福祉協議会と連携し、救急法指導員の養成を進めます。

イ) 防災奉仕団に県下6ブロックで広域体制を取っていただき、県内の被災時に救護班が出動する際に当該ブロックでの活動にご協力いただける体制を整え、平時でも地域奉仕団とも連携した主催事業の展開など、自主防災組織や防災士等と協働しつつ地域活動を支えていただけるようお願いしていきます。

(3) 旧庁舎の解体

当該建物は、昭和43年に建築され、現在は資機材の保管場所として活用していますが、耐震診断の結果、大規模地震に対して倒壊又は崩壊する恐れがあり、災害時の緊急輸送道路にも面していることから、早急に対策を講じる必要があります。築55年が経過し老朽化が激しいため、耐震補強は行わず、市の補助制度を活用して5年度中に解体工事に着手します。

また、ほぼ同時期に建築された隣接の倉庫・プレハブも近い将来には解体する必要があり、効率的な解体の時期や解体後の有効な土地の利活用についても検討を進めていきます。

2. 青少年の育成

青少年赤十字の掲げる「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標と「気づき」「考え」「実行する」という態度目標の実現に向け、奉仕団や教育委員会等と連携した取り組みを進め、県内全ての市町村に青少年赤十字加盟校（園）があることを目指します。

(1) 青少年活動の強化

① JRC（青少年赤十字）加盟促進と活動の充実

- ア) 地域奉仕団、高知県青少年赤十字指導者協議会や青少年赤十字賛助奉仕団等と連携し、加盟校の増加や防災教育への参画等活動の活性化に努めます。
- イ) 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」を広め、県内の子どもたちが自分の命を自分で守る取り組みを進めます。
- ウ) 青少年赤十字活動発表の場である「高知県青少年赤十字研究大会」やJRCメンバーが自分自身のリーダーシップを醸成する「高知県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」は高知県青少年赤十字の主要な取り組みであり、引き続き、内容の充実に努めるとともに、SNSを活用した情報発信など広報強化にも取り組みます。

② 青年奉仕団の増強

- ア) 青年奉仕団で取り組んでいる支部主催行事への参加や、高知大学におけるサークル活動（高知大学学生奉仕団「いのちのリボン」）を通じて連携を強化していきます。
- イ) JRCメンバーや地域奉仕団、特殊奉仕団等と赤十字イベントや研修会等とともに「赤十字の見える化」に繋がります。

ウ) 防災に力点を置いた活動を行っている県内3大学(高知大学・高知県立大学・高知工科大学)の学生ボランティア団体との交流を深め、協力して防災への取り組みを進めます。

③ 教育委員会との連携

ア) 県及び各市町村教育委員会との連携を強化し、加盟校の増加を図り、学校教育の中で赤十字を活用していただくよう取り組みます。

イ) 高知市教育委員会の委託を受け市内の全小学5年生を対象に実施している「心肺蘇生講習」を継続し児童生徒の災害時の対応力を養います。

3. 赤十字活動の展開

(1) 災害被災者の救援

県内各地で発生する火災・風水害等に伴う住宅被災者に対して救援物資をお渡しするとともに、不幸にして亡くなられた方の遺族に対して弔慰金を贈ります。

(2) 災害義援金の募集

大災害に際しては、本社と協議しながら義援金口座を速やかに開設して県民の皆様からの善意の寄託に対応します。

(3) 臨時救護所の開設

県民の皆様が多数参加するマラソン大会や各種行事等への臨時救護事業に取り組みます。

(4) 国際救援・開発協力事業

ア) 世界各地で発生する大規模な自然災害や中東やアフリカ諸国での紛争等で苦しむ方々などの状況をお伝えするほか、海外で大規模災害等が発生した際には、現地の赤十字社が行う活動を支援するため海外救援金の募集を行います。

- イ) 中国・四国の赤十字支部が共同で行う国際救援事業として引き続き「アジア・大洋州給水・衛生キット事業」に対する資金援助を行います。
- ウ) 国際活動に関するオンラインプラットフォーム等に参加するとともに、その知見を支部の地域事業や広報に積極的に活用します。
- エ) 人道的支援として、12月にNHKとともに「海外たすけあい寄付金募集」キャンペーンを行います。

(5) 赤十字奉仕団の育成及び活動の活性化

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践するため、地域や活動分野ごとに結成されたボランティア組織であり、赤十字活動に欠かせないものです。赤十字奉仕団高知県支部委員会や高知県赤十字奉仕団活動推進協議会、また各地区分区と連携し、全奉仕団の活動紹介冊子を作成するなど、それぞれの奉仕団活動の見える化を図るとともに、全奉仕団とJRCが参加するイベントや訓練、研修会等を実施し、垣根を越えた奉仕団同士の交流を図ります。

また、各奉仕団が円滑な活動が展開できるよう、中国四国ブロック赤十字奉仕団研修会、本社赤十字ボランティア・リーダー研修会、本社赤十字奉仕団指導講師研修会に継続して奉仕団員を派遣し、地区分区単位で、赤十字活動の事業・知識・技術を伝えていただける支部指導講師等の人材育成にも努めていきます。

(6) 高知県赤十字有功会との連携

県内の赤十字活動に支援をいただく有功会の活動が、会員はもとより県民の皆様にも身近に感じていただけるよう「見える化」に努めていきます。

(7) 赤十字事業啓発行事の推進

① 赤十字運動月間啓発パレード

県民の皆様に広く赤十字を知ってもらうため、4月に支援協賛団体や赤十字奉仕団、各地区分区の支援・協力を得て、県内の赤十字3施設合同で啓発パレードを行います。

また、運動月間に各地区分区や赤十字奉仕団で取り組んでいる、のぼ

り、旗の掲揚などの取組みをホームページ等で広報します。

② 世界赤十字デー

5月8日のこの日、赤十字創始者(アンリー・デュナン)の偉業を偲び赤十字事業を考える日とし高知城を赤十字色にするライトアップを行います。

③ 全国赤十字大会への参加

赤十字精神の高揚と社業振興を図る目的で、5月に東京都明治神宮会館で開催される全国赤十字大会に代表者等が参加します。

④ 日本赤十字社有功章等伝達式及び支部長表彰式典

金色有功章等の伝達を行い、高額寄付者への感謝の意を表するとともに、活動資金募集奉仕永年功労者及び地域赤十字活動功労者並びに病院事業、血液事業の功労者の表彰を行い、日頃のご労苦に感謝し、式典を通じて赤十字精神の高揚を図ります。

⑤ 防災・減災プロジェクト

過去の災害の教訓を忘れることなく、日本赤十字社、赤十字奉仕団、サポーター企業・団体等が一丸となって取り組むことで、将来起こりうる災害に対する防災・減災意識の向上を図ります。

(8) 高知県支部管内の赤十字施設間の連携強化

高知県支部合同災害救護訓練などの共同取組事業を実施し、有事の際には迅速な対応ができるよう施設間の連携強化を図るとともに、連絡会議や合同研修等を行い、施設間の連携を図ります。

4. 会員の増強と活動資金の募集

活動資金の寄付額については、平成27年度以降1億円を下回る状況が続いており、災害時に必要な資金などが不足することが見込まれること、また旧庁舎の解体に多額の経費を要することから、引き続き地区区分を通じた枠組みを第一としつつ、会員・活動資金の増加に努めます。

(1) 活動資金の目標額

令和5年度の目標額については、新型コロナウイルス感染症に伴う今後の経済動向が不透明であること、当該感染症の影響を踏まえた目標額を設定するには根拠とする統計データ等の情報が不足していること等から、全社的な改定が見送られたところであり、令和4年度までの6年間と同じ額としています。

地区別目標額（案）は12ページ掲載

区 分	令和5年度		【参考】令和4年度12月末現在		
	目 標 額	対前年比	目 標 額	実 績 額	達成率
	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
一般活動資金	91,065	100.0	91,065	69,101	75.9
法人活動資金	12,435	100.0	12,435	16,803	135.1
合 計	103,500	100.0	103,500	85,905	83.0

(2) 寄付募集体制の強化

① 募集团体の理解促進

地域奉仕団の主催事業及び支部との協働による研修会等の開催や地域での防災訓練への積極的な参加などにより「赤十字の見える化」を図り、会員・活動資金の増強に繋がります。

② 企業・法人の理解促進

ア) ダイレクトメールによる企業・法人への募集をこれまで以上に強化します。

イ) 業界団体や職能団体を直接訪問し赤十字事業へご理解いただき傘下法人・団体等のご協力を依頼するとともに、個別の企業訪問による寄付の増額等、新規企業・法人の開拓を進めていきます。

ウ) 赤十字の表彰制度を活用し、被表彰企業等を直接訪問するなど寄付の確保・増額に努めます。

③ 個人会員の拡大

ア) 令和4年4月1日現在、地域奉仕団、特殊奉仕団員数は4,462人であり、できるだけ多くの方に会員になっていただけるよう赤十字奉仕団高知県支部委員会及び地区分区に対して活動資金への理解と会員化をお願いしてまいります。

イ) 赤十字講習受講者や災害義援金・救援金の寄付者等への会員勧誘に努めます。

④ 遺贈・相続財産等への取組み

令和2年12月に四国銀行と締結した協定を足掛かりに広く県民の皆さまに遺贈等に関する周知の拡大を図るとともに相続等に関する専門家の団体や他の金融機関との協定締結についても促進していきます。

令和 5 年度日赤活動資金地区別目標額一覧表

単位(千円)

地区名	一般社資	法人社資	合 計	対前年比	令和 4 年度
	目標額	目標額	目標額		目標額
高知市	35,469	6,342	41,811	100.0	41,811
室戸市	1,867	186	2,053	100.0	2,053
安芸市	2,396	318	2,714	100.0	2,714
香南市	3,817	215	4,032	100.0	4,032
香美市	3,531	312	3,843	100.0	3,843
南国市	5,515	885	6,400	100.0	6,400
土佐市	3,393	423	3,816	100.0	3,816
須崎市	2,703	408	3,111	100.0	3,111
四万十市	4,271	705	4,976	100.0	4,976
宿毛市	2,824	363	3,187	100.0	3,187
土佐清水市	2,182	180	2,362	100.0	2,362
安芸	2,371	189	2,560	100.0	2,560
中央東	1,782	195	1,977	100.0	1,977
中央西	7,397	666	8,063	100.0	8,063
高幡	4,823	318	5,141	100.0	5,141
幡多	2,724	140	2,864	100.0	2,864
地区合計	87,065	11,845	98,910	100.0	98,910
支部扱	4,000	590	4,590	100.0	4,590
総 計	91,065	12,435	103,500	100.0	103,500



南海トラフ地震等への対応



青少年の育成

救護・受援体制の確立

地域拠点の構築

青少年活動の強化

① 行政・医療機関との連携

① 協定団体との協働の充実等

① JRC加盟促進と活動の充実

② 本社・各県支部との連携

② 防災教育の推進

② 青年奉仕団の増強

③ 地域の防災訓練への参加

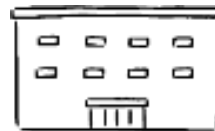
③ 広域での中核人材確保

③ 教育委員会との連携

④ 救護装備・資材の整備・充実

⑤ 救急法等各種講習

旧庁舎の解体



奉仕団の育成

会員・活動資金の増強等

① 各奉仕団員の育成

③ 募集团体の理解促進

⑤ 個人会員の拡大

② 各奉仕団間の交流

④ 企業・法人の理解促進

⑥ 遺贈等への取組強化

